



甚大な浸水・冠水被害をもたらした平成16年23号台風



◆志高地区(志高) 延長約2,400m 樋門2基



◆水間・中山地区(水間・水間下・中山) 延長約1,500m 樋門2基



◆上東地区(上東) 延長約1,000m 樋門1基



◆大川地区(大川・八田・八戸地・丸田西) 延長約2,500m 樋門2基



◆三日市地区(三日市) 延長約1,100m 樋門1基



◆下東地区(下東) 延長約1,300m 樋門2基

写真提供: 福知山河川国道事務所

INTERVIEW

治水事業に関わって

下東地区で生まれ育ち、仕事のため地元を離れたましたが、母が一人になったのをきっかけに戻り、輪中堤の整備にも地元代表として関わらせてもらっています。平成16年の台風時などは「どこまで水がつくのか」と不安でした。また、泥水なので農作物への被害も甚大でした。平成25年から輪中堤の用地の準備から始まり、地盤調査・改良、輪中堤の整備と進みました。堤防によって増水時に堤内の住宅や田んぼに泥水が押し寄せてこないだけでなく、その後の農地などの復旧を考えると本当に助かります。これで由良川の洪水に対する不安は一定解消されたように思いますが、樋門を



下東地区輪中堤整備委員長 由里富美夫 さん

締め切った際の内水がどの程度になるのかは、気がかりです。工事に伴う通行止めなど不便なこともありましたが、地域の皆さんはとても協力的で一丸となって取り組めたことを感謝しています。

からは守られるようになりましたが、地域によっては増水時に樋門を閉めることで、内水(支流の川の水)が堤防内に溜まり浸水被害が発生しています。この新たな課題解決に向け、国と市で検討を進めています。

《自身の安全確保を》
由良川地域は輪中堤などハード対策が完了しようとしています。自然災害はハード整備をしたからといって「安全」というものではありません。自分自身の安全確保を最優先に、災害時には避難所への早めの避難など、命を守る行動をとりましょう。

KEYWORD

樋門

輪中堤内の川や水路が由良川と合流する場所でゲートを閉めて、増水した由良川の水が輪中堤内に逆流しないよう操作する施設。



KEYWORD

輪中堤

一定の区域を河川の氾濫による水害から守るため、その集落を囲むように造られた堤防のこと。命と財産を守り水害を防ぐ機能がある。

◆台風と由良川
加佐地域を流れる由良川は京都、滋賀、福井の境、二国岳を源流に日本海へ注ぐ、延長146kmの一級河川です。暴れ川と呼ばれた由良川の流域に暮らす人々は、昔から度重なる洪水による氾濫との戦いを繰り返してきました。昭和28年の台風13号や昭和34年の伊勢湾台風をはじめ、近年では、平成16年台風23号、平成25年台風18号、平成29年台風21号、平成30年7月豪雨など由良川沿いの地

◆輪中堤で水防対策

由良川沿いの各地区では、輪中堤の築造工事が順次進められ、平成25年から着手された下東地区と三日市地区でも「輪中堤本体」と「樋門」が完成し、由良川の洪水から命と財産を守る機能が整いました。現在も堤防の内側と外側を結ぶ「乗り越し道路」や「水路整備」など堤防周辺の整備工事が進められています。

《新たな課題》
輪中堤によって外水(由良川の水)被害

由良川水防対策 歴史と今

《国・府事業推進課》